

平成28年度第3回郡上市総合教育会議 要録

日 時 平成28年9月29日(木)
開会 15時30分 閉会 17時15分

会 場 郡上市役所 4階委員会室

出席者	郡上市長	日置 敏明
	教育長	石田 誠
	教育長職務代理者	原 初次郎
	委 員	杉本 尚之
	委 員	清水 るみ子
	委 員	水野 秋子

【オブザーバー】

副市長	青木 修
市長公室長	三島 哲也
教育次長	細川 竜弥
農林水産部長	下平 典良
商工観光部長	福手 均

【陪 席】

教育委員会学校教育課長	羽土 聡
教育委員会教育総務課長	一柳 芳之
教育委員会教育総務課長補佐	長尾 英行

【事務局】

市長公室次長兼企画課長	置田 優一
市長公室企画課主幹	石田 紀美江

議 事 (1) 郡上市の県立高等学校の望ましいあり方について

市長あいさつ

今年度総合教育会議では郡上市内の県立高等学校の望ましいあり方を中心に議論している。今回その議論を総合教育会議としての提言という形で文章化した。これが最終案ではないので、是非ご意見をいただきたい。よろしく願います。

教育長あいさつ

中学3年生はこれから真剣に進学先を考える時期となる。また郡上北高の活性化協議会は11月12日文化祭に併せて開催されるため、色々な情報を入れていく。今後高校と同時に

小中学校のあり方についても考えていく必要がある。白川郷学園が来春から小中一貫義務教育学校になるが、全国では22校ある。郡上市教育委員会メンバーは10月12日に白川郷学園、さらに11月1日には岐阜市のコミュニティ・スクール等を見学し、今後の小中学校等のあり方についても検討していく。本日はよろしく願います。

【話題提供】

○郡上市森林・林業人材育成事業について…………… 農林水産部長より説明

○郡上市雇用対策協議会高校生対象事業 年間事業計画について… 商工観光部長より説明

【議 事】

○郡上市の県立高等学校の望ましいあり方について－提言－（案）に基づき、事務局より説明
意見交換

委 員：このコースを出たらどういう職業につけるのか具体的にわからないと物足りない。郡上にある職場を当てはめていくと分かりやすい。

市 長：人材を養成することと職業として成り立つこと。重要なお指摘だ。

委 員：魅力はあるがなかなか厳しく感じる。

委 員：レクリエーションはレクリエーションではないか。また6ページの関連性の図に女性就労と女性活躍とあるが特段記載しなくても良いのではないか。

事務局：産業振興支援センターの中で市内企業での女性就労促進や機能が求められているので参考までにつけた。削除する。

委 員：地域との連携を打ち出していくのであれば、現在すでに行っている活動も提言の中に盛り込んだらどうか。

委 員：前回までは、必ず郡上高校と郡上北高校の2校を残すと明確に打ち出していたが、今回「当面」とありトーンダウンした印象がする。

市 長：前回の議論で県へは2校残すことを提言することで意思統一はした。将来のことではなく「今は残すべき」とする。

副市長：伝統芸能コースへ入っても就職はできないが郡上で生きる利点や進学への可能性などを整理すると、総合教育会議としての提言の価値が上がってくる。

市 長：郡上市の生徒数が減っていくことは間違いない。教育カリキュラムの中で特色ある勉強もしていけるという教育の専門的なアイデアを出していただく。

教育長：来年度中部学院大学にスポーツ健康科学科ができる。10月5日に大学の担当から、どういう高校生を求めている、卒業したらどういう資格が得られて職業に直結するかなど教えていただく。

教育次長：現在郡上市内の器械体操の指導者の下に羽島から通ってきている子や全国大会に出場できる子もいる。しかし郡上高校には体操部がなく、中京高校の体操部も廃部となるため、県外へ出ていかないと高校生としての活躍の場がなくなる。コースとあるが、部を創設し全国大会などで自信と誇りをもって活躍していただき、職業でなくても地域へ戻って指導するなど、生き生きとした生き方ができるのではないか。職業直結は難しいが、

生きがいつくりや自分の自信や誇りにつながる部分を育てることも大事。

室 長：5ページのコースを出たらどうなるのか解らないという点については、郡上市の伝統文化を守る、或いは郡上市での就業に繋がるなどのカテゴリに分けてわかりやすく整理して表記する。

副市長：全国のコースがある学校が、どういう教育課程を編成しているか調べ、具体的な提言ができる県教委に受け入れてもらえる可能性も出てくる。また郡上の企業が求めている人材については農林や商工で収集できる。郡上の子どもが高校でどんな学びをして大学を選び、場合によっては郡上の企業に就職するという流れを作ることができる。全体像として学校教育という専門分野については情報をまとめて、プランニングしていく。

市 長：企業から大学のどんな学科を出てどんな能力を持った人材が欲しいという対外的なアナウンスメントがない。雇用対策協議会も高校生だけでなくさらに教育を受けた人たちに企業が具体的に求めている人材を積極的にアピールすることが必要。

学科とクラブ活動を整理する必要がある。またクラス編成では、高校の在り方として可能な提言をしていく。学科にコースをおく場合、踏み込んだ可能性のある提言が必要。

室 長：現在ある学科の中に、新たにコースを設ける場合望ましいコースとしてどこまで提言に踏み込むことができるか教育委員会と検討したい。

市 長：郡上市の今後の生徒数を考え、クラス編成で40人そのものを減らす考え方と、40人のバリエーションでのコースの在り方について提言していく。

委 員：3ページの学科内訳の大きな表はここでは必要ない。

羽 土：第2回郡上の高等学校の望ましいあり方を考える会を10月5日（水）午後2時から開催するが、その中でも郡上北高を残すことが大前提であると確認している。

今回郡上北高等学校活性化協議会として県教委に報告された内容について郡上北高校長から報告していただく。今後は地元企業とのかかわり方や若手経営者の声を聴いていこうと考えている。

室 長：提言提出については県教委と日程等確認し、可能であれば総合教育会議を開催し、場合によっては文章で委員の皆さんに内容の確認をさせていただく。また11月には来年度予算にむけて総合教育会議として行ってほしい施策なども話し合っていきたい。

原教育長職務代理者あいさつ

提言（案）については再度しっかり読んで意見を出していただくなど、県へ良いアピールができるものにしたい。お疲れ様でした。